

第7章 重点プロジェクト

第6章で望ましい環境像を達成するための基本的な目標と目標達成のための様々な取り組みについて提示しました。

この章では、その中でも緊急性が高く、早期に実施した方がよい取り組みや、社会の状況・動きから見て、優先的に進めるべきもの、大きな課題であり解決に時間がかかるものなどを重点プロジェクトとして取り上げます。

第1節 清流を回復する

望ましい姿

- 下水道の整備や浄化槽の設置が進み、河川の水質が向上、ほとんどの河川でカワゲラ、トビゲラ、サワガニなどのきれいな水に棲む生物が見られるようになっている。
- 御勅使川、滝沢川、秋山川、坪川などでは、親水空間が拡充された。暖かい日は水遊びをする親子、サワガニを探す子ども達等でにぎわっている。

実現への課題と取り組み

《課題》生活排水クリーン処理率のアップ、意識向上

本市では、生活排水の処理率が県平均よりも低く、下水道の整備や浄化槽の普及が求められています。また、下水道が施設されているにもかかわらず接続しない世帯や浄化槽の点検、メンテナンスが十分でないケースも見られます。清流を取り戻すためには、人々の意識の向上も不可欠です。

《取り組み》下水道整備推進、浄化槽普及と水とのふれあいの機会の増加

公共下水道は、平成47年度の事業完了を目指し、継続して整備を推進します。しかし、大きな財政負担も予想されることから、地域によっては浄化槽の普及を図っていきます。また、水質の状況を確認するため、定期的な水質調査を実施します。

水や水生生物とのふれあいは、清流の心地よさ、大切さについて意識を喚起します。そのため親水公園の整備や、子どもや親子を対象にした水生生物による水質調査を実施します。

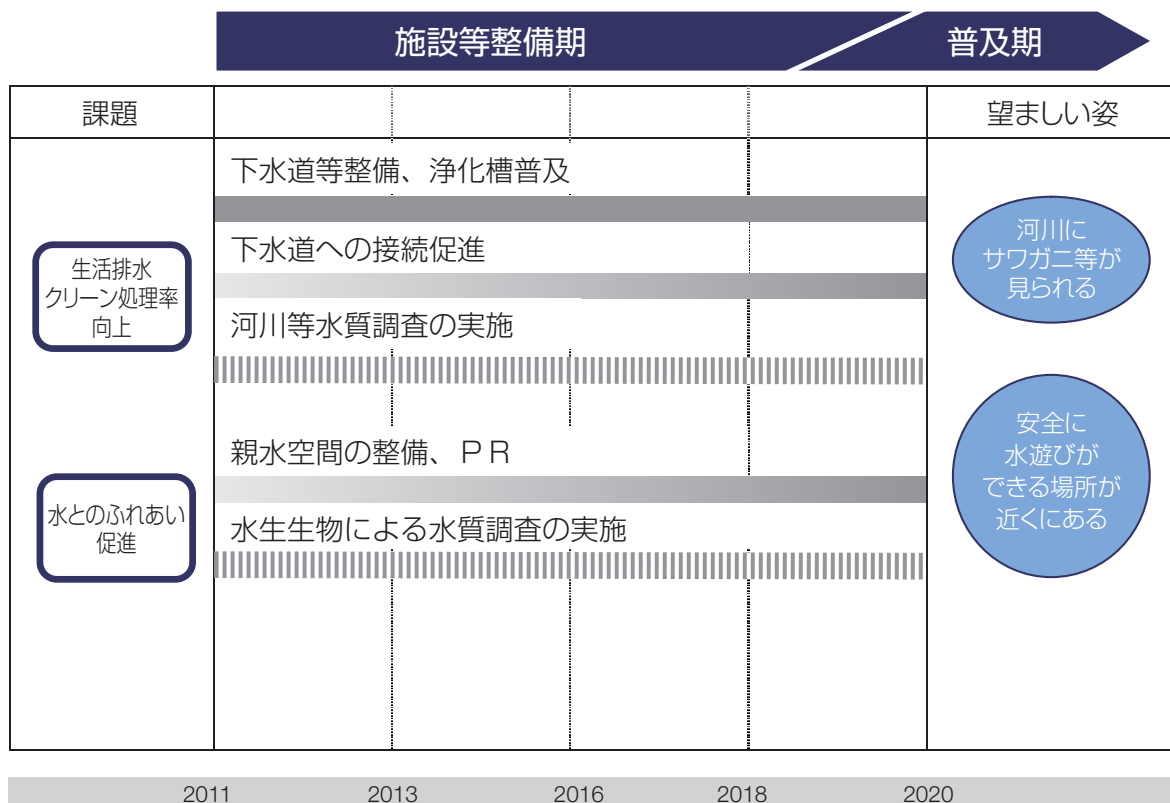
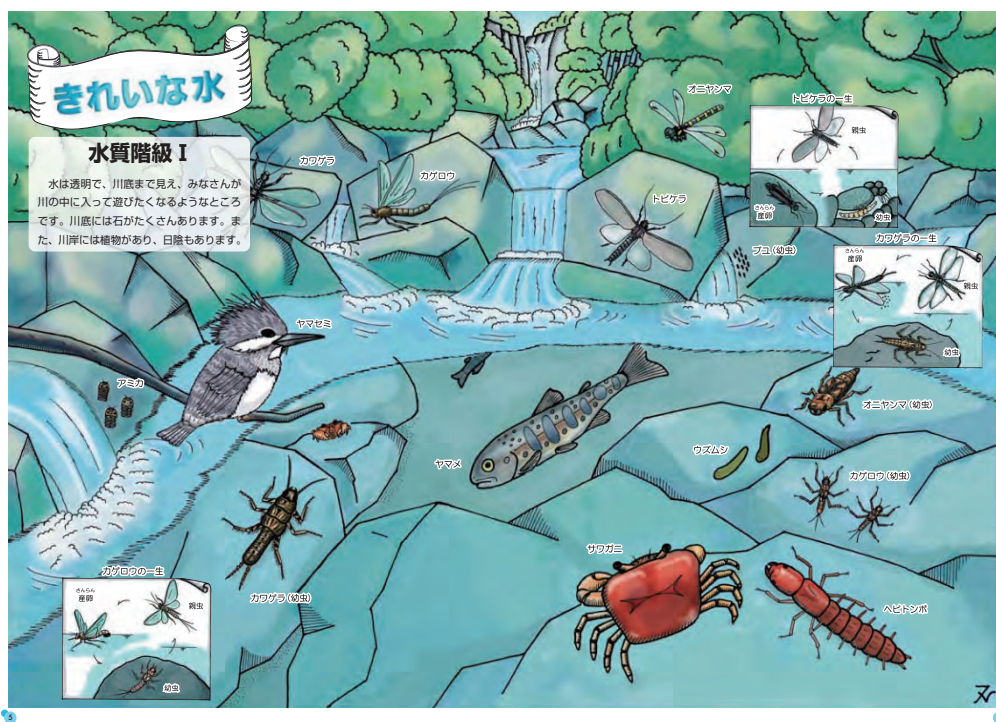


図 7-1 きれいな水にすむ生物



出典：環境省「全国水生生物調査のページ」

第2節 貴重な自然環境を守る

望ましい姿

- 南アルプスの高山植物は、厳重な保護対策により、シカ等による食害の危険が回避されている。その結果、希少種が自生する見事なお花畑が登山者の目を潤わせている。また、櫛形山のアヤメ群落も復活のきざしが見えている。
- 南アルプスはユネスコ・エコパーク（生物圏保存地域）、日本ジオパークの登録地となった。「本物の自然があるところ、人と自然が共生するところ」として全国的に注目され、それが地域の誇りとなり、自然資源の持続的利用のための取り組みを後押ししている。

実現への課題と取り組み

《課題》シカ等による食害の防止、世界遺産登録機運の高揚

南アルプスの高山植物や櫛形山のアヤメ群落は、自然環境の変化、特にニホンジカ等の増加による食害で減少・縮小しています。どのように食害を防止するか、あるいは植生を回復するか、自然が相手であり解決が困難な課題となっています。

南アルプスの世界遺産登録には長い時間がかかると予想されます。まず、ユネスコ・エコパークや日本ジオパークの登録を目指し、それをステップとして、機運を盛り上げていくことが有効です。

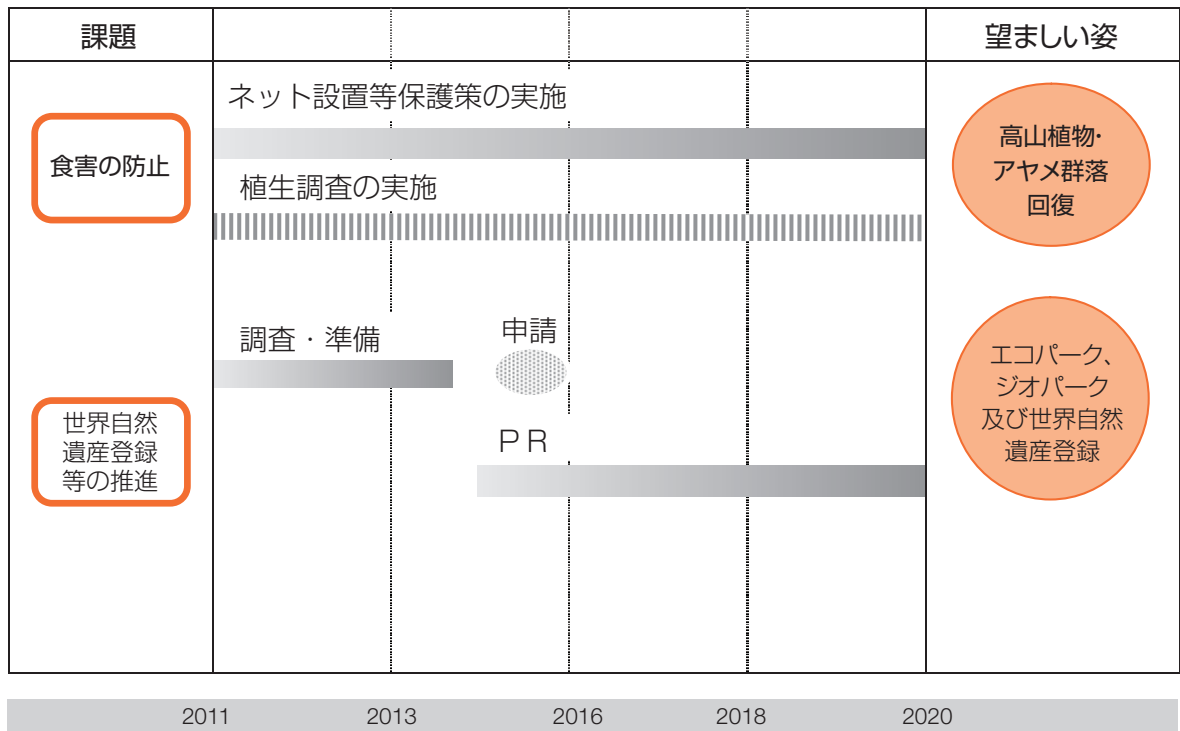
《取り組み》植物の保護措置、シカ等の個体数管理、エコパーク等の登録推進

高山植物やアヤメ群落はネット設置等により保護していきます。ニホンジカ、イノシシ、ニホンザルの個体数の適正管理を図ります。

ユネスコ・エコパークや日本ジオパークについては、登録手続きを関係市町村、団体等と協力し進めます。登録の運びとなった際には、積極的にPRし、市民意識の盛り上がりを図り世界自然遺産登録へとつなげていきます。

調査等

対策等実施



南アルプスのお花畑

(出典：南アルプス世界自然遺産登録推進協議会)

第3節 緑を守る、育む

望ましい姿

- 都市公園の面積は20%程度増え、農村公園や広場の整備も進んでいる。公共施設や学校においても緑地の確保が図られ敷地面積の2割ほどは樹木で覆われるようになった。幹線道路沿いの商店の駐車場でも緑化の取り組みが進んでいる。
- 御勅使川扇状地の果樹園では、グリーンツーリズムの展開や団地化により、遊休農地の解消が進んでいる。畑地や水田も地産地消が進んだことで、優良農地が保全されるとともに、荒れていた休耕地も花畑などとして活用され、季節の変化とともに市民の目を楽しませている。
- 生垣の設置や敷地の緑化に取り組む市民や事業者が増え、目に入る緑の量が増えている。

実現への課題と取り組み

《課題》緑地の確保、拡大、農地の保全

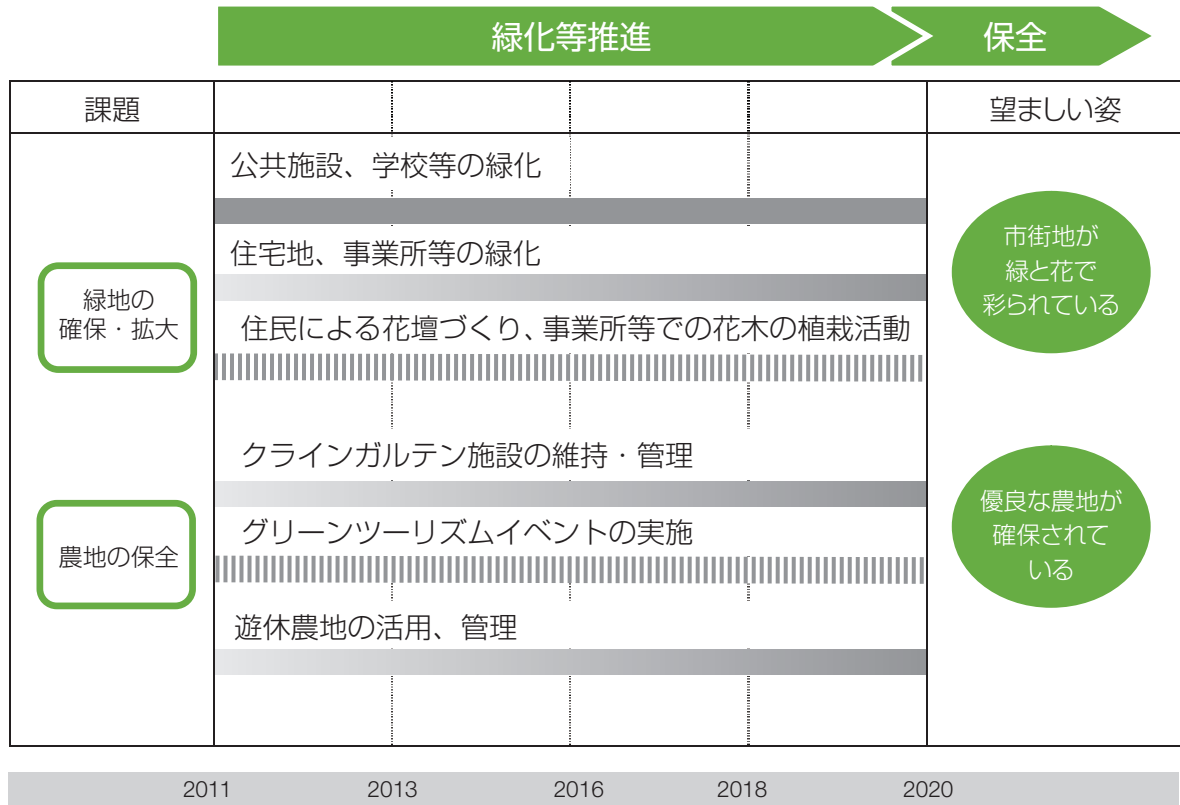
本市の市街地では、緑地はあまり多くありません。公有地ばかりでなく、民有地でも緑化を進める必要があります。

担い手の高齢化が進む農業の振興は簡単ではありません。しかし、果樹は本市を特徴づける産物であり、半自然としての農地自体も潤いのある市民生活には欠かせません。

《取り組み》公有地、民有地の緑化推進、農地の保全、遊休農地の活用

公共施設や学校の緑化を推進します。また、住宅地等への生垣の設置や空きスペースの緑化に取り組めます。

農業については、担い手の確保に取り組むとともに、農地の保全と耕作放棄地の再生、有効活用を図ります。



第4節 奥ゆかしさと本物を誇る風景づくり

望ましい姿

- 市内の遺跡「石積出し・将棋頭」、「物見塚古墳」、戦争遺跡「ロタコ」などは公園化され、郷土の歴史を学ぶ格好のフィールドとして市内小中学生に利用されている。
- 市之瀬台地に広がる棚田は、「文化的景観制度」の活用により保全され、背後の集落、山林とともに懐かしい里山景観をつくり出している。
- 扇状地に広がる農地を基調とした景観づくりが行われ、農地、集落、山岳が織りなす心穏む風景を見せる場所が増えている。

実現への課題と取り組み

《課題》 居住地域の修景と農の風景の保全

住宅地の増加や道路など社会資本の整備が進むにつれ、雑然とした景観が出現し統一感のある地域の個性を生かした風景づくりの難しさを浮き彫りにしています。

また、耕作放棄地の増加と農業者の高齢化は本市の特徴である「農の風景」の保全を困難なものにしています。地域の景観資源を再認識し、それぞれの主体が一丸となって保全・活用していく必要があります。

《取り組み》 景観法を活用した景観づくり、眺望景観、文化的景観の保全・創出

現在、「南アルプス市景観計画」を策定中です。この計画は「景観法」に基づく景観計画であり、今後は法のシステムを利用しつつ、地域の景観づくりを行っていくとともに、本市の独自の枠組みの中でも眺望景観の保全や創出、文化的景観の保全・継承に取り組めます。



市之瀬台地の棚田

第5節 新エネルギー導入、省エネルギー推進

望ましい姿

- 新築はもちろん、既設の住宅もほとんどが太陽光発電あるいは太陽熱利用機器を導入するようになった。自然エネルギーの利用増に併せて、スマートグリッドの整備が進んでいる。御勅使川、滝沢川などには小水力発電設備が数カ所設置され、近隣の公共施設などに電力を供給している。
- 公共施設はもとより、住宅や事業所でも高断熱化、省エネ化が進んだ。高効率エアコン、ヒートポンプ給湯器、LED 照明などを大部分が利用している。家電製品はスマートメーターで互いに繋がり、快適さを提供しながら、省エネを図っている。

実現への課題と取り組み

《課題》さらなる推進策の展開

本市では、「南アルプス市地域新エネルギービジョン」を策定し、太陽光発電設備の住宅への設置に補助金を交付するなど新エネルギーの普及を進めています。また、「地球温暖化対策実行計画」では、市役所全体で CO₂ 排出量を平成 26 年度までに 19 年度比で 6.0% 以上削減するとしています。

今後は市が先導役となり、一層、新エネ、省エネの両面から低炭素社会づくりを進める必要があります。

《取り組み》市庁舎等での大幅省エネ、市民との協働による新エネ・省エネ普及事業の推進

市庁舎や温泉施設での将来的な ESCO 事業の導入を念頭に、省エネルギー診断を実施します。省エネルギー診断により、省エネ余地の大きな施設や機器を把握し、効果的な省エネが可能になります。将来的にはエスコ事業導入により、大幅な CO₂ 排出量削減を目指します。

一方、現在行っている「住宅用太陽エネルギーシステム設置費補助金」を当面継続するとともに、廃食用油の回収事業の拡大、果樹剪定枝のバイオマス燃料利用の実用化、小水力発電導入箇所の拡大、緑のカーテンの普及、家庭や事業所でのヒートポンプ給湯器等省エネ機器の積極的な導入に取り組み、市民や事業者と協働した新エネルギーの普及、省エネルギーの推進を図ります。



TDK 甲府工場の太陽光パネル
(出典:TDK ホームページ)

第6節 市民・事業者の自主的な活動、協働の取り組みの推進

望ましい姿

- 地域の良好な環境づくりは、住民主導で行われ、数多くのNPOや事業者が独自の活動を実施しつつ、お互いが情報交換、協働するための体制が確立されている。
- 学校での環境教育や地域住民による環境保全活動が活発におこなわれ、子どもからお年寄りまで誰もが積極的に、自然環境、住環境に配慮したまちづくりに取り組んでいる。

実現への課題と取り組み

《課題》さらなる推進策の展開

現在様々なNPOや地域の団体、事業者が独自に、あるいは行政と協力して、良好な環境づくり、循環型社会づくりなどに取り組んでいます。今後もこの動きをさらに活性化し、広めていくことが求められます。

《取り組み》協働事業の推進、南アルプス市環境市民会議の立ち上げ

行政と市民の対等な役割分担に基づいた協働事業を発掘し、既存の事業についても息の長い取り組みと活動の活性化に努めていきます。

様々なNPOやボランティア団体が一同に集い、そこに事業者や行政も参加する会議を設け、定期的を開催します。それぞれが意見を交換する中で団体間の横の繋がりを強化し、事業者や行政とも連携・協働した取り組みを進めます。

導入期

普及期

課題		望ましい姿			
更なる推進策の展開	市民活動センターを拠点とした支援	住民主導の環境づくり、まちづくりが進むまち			
	協働事業の発掘、既存事業の活性化				
南アルプス市環境市民会議	自治会等との協働				
	立ち上げ 開催				
	2011	2013	2016	2018	2020